

半導体漫遊記

156

湯之上隆

東芝メモリの1次入札が3月29日に締め切られた。入札したのは、米ウエスタンデジタル、米マイクロン、韓国SK Hynix、台湾ホンハイ、台湾TSMC、中国の紫光集団、米アップル、ファンドの米ベインキャピタルおよび米シルバレーイクなど、事前に分かっていた企業や組織以外に、IT企業の米グーグルと米アマゾン、通信半導体企業のプロードコムが参入した模様である。

必要である。高性能サーバーには、SSD (Solid State Drive) が必要不可欠で、SSDの基幹部品が3次元 NANDフラッシュメモリになりつつある。2016年第二四半

必要である。高性能サーバーには、SSD (Solid State Drive) が必要不可欠で、SSDの基幹部品が3次元 NANDフラッシュメモリになりつつある。2016年第二四半

入し、リソースを投入してウエスタンデジタル

うなビジネスをするかは各社の勝手なのだ。サンディスクは、強みであるシステム設計を生かしてSSDをメインとするビジネスを展開している。一方、システム設計に難がある東芝は、付加価値が高いSSDビジネスが弱く、NANDのほと

どが中国のスマホメーカーに販売されている。東芝メモリの技術者自ら、「俺たちは単なる部品屋だ」と自嘲気味に話しているほどだ。

ところが、グーグルやアマゾンが何とかなるだろう。彼らの中に優秀なシステム設計部隊があるかもしれないし、もし無ければ、買収したり、ヘッドハンティングしたりして、外部から優れたシステム設計者を連れてくるだろう。

グーグル、アマゾンが買収参入

東芝メモリにもメリツト

からないが、グーグルとアマゾンの狙いは、急成長しているクラウドサービスの強化にあると考えられる。クラウドサービスに

期のクラウドサービスとして強化しようとしている。アマゾンもグーグルも、クラウドビジネスの拡大には、3次元的な投資も折半し、人員も半分ずつ出

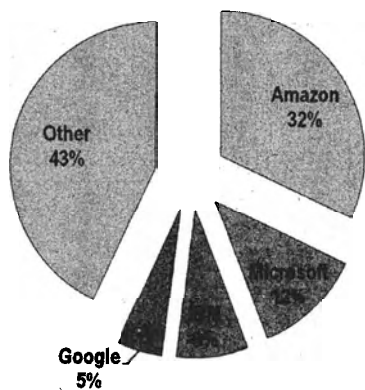


図1 クラウドサービスの売上高シェア(2016年Q2)

出所: Synergy Research Group

このように考えると、東芝メモリがグーグルやアマゾンに買収されるのは、良いことだらけのように思える。ぜひ、グーグルがアマゾンに買ってほしいものだ。(微細加工研究所 所長)